

2024 年 5 月 29 日

## 臨床データ利用のお願い

海南病院では、以下の研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報を研究目的に利用されることをご希望されない場合などお問い合わせがありましたら、お手数ですが以下の問い合わせ先にご連絡ください。

### 1. 研究課題名

急性期脳梗塞治療における医療体制変更後の血栓回収療法の実態

### 2. 研究責任者

海南病院脳神経外科 和田 健太郎

### 3. 研究の概要

脳梗塞急性期治療で主幹動脈閉塞症による脳梗塞治療に対してすでにt-PA(tissue plasminogen activator)併用下の脳血栓回収療法はすでに一般的な治療となっており、脳卒中ガイドラインでもグレードAでの記載があり急性期に行わなければならない治療となった。治療適応患者は発症時間、ペナンプラ領域の有無、閉塞血管部位や発症前のmRS(modified rankin scale)など多岐の因子で規定されるが適応を満たす患者には迅速かつ安全に血管内治療を行うことが標準治療となっている。2023年3月以前はJA愛知厚生連海南病院では脳血管内治療専門医、血栓回収治療実施医ともに常勤医不在のため、名古屋大学脳血管内治療グループに適応と思われる患者が発生した時点で連絡し治療にきてもらうmobile drip and go systemにて脳血栓回収療法の治療を行ってきた。2023年4月より脳血管内治療専門医が常勤医として着任し治療体制が大きく変わり、また治療に関わるメンバーも大きく変更があったために血管内治療専門医着任前後における治療結果が転帰にどのように影響を及ぼしたのか調査した。

### 4. 研究方法

#### ① 対象となる患者さん

急性期脳梗塞の患者さんで、2019年4月から2024年5月までの間に当院で急性期脳血栓回収療法を受けた患者さん

#### ②使用する試料等

カルテ情報：各症例における発症から病着、検査、画像所見、画像までにかかる時間、血栓回収療法を行うまでの穿刺時間、手技時間、予後、神経所見、画像所見などをカルテ記載や記録から後方視的にデータを抽出した。

5. 個人情報の取扱い

貴重な患者さんの個人情報は、「個人情報保護法」及び「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」など各種法令に基づいて管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

6. 問い合わせ先・相談窓口

JA 愛知厚生連 海南病院 脳神経外科 和田健太郎

電話：0567-65-2511（代表）